

会議録（要点記録）

会議名称	令和6年度 第3回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和7年2月12日（水）14:00～15:41		
開催場所	市役所西庁舎 第五会議室		
出席者等	小高会長、有泉委員、渡部委員、坂上委員（欠席）、牧野委員、執行委員（欠席）、小椋委員（欠席）、鈴木（絵）委員、山岡委員、石川委員、鈴木（澄）委員、藤原委員、大澤委員 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主事		
傍聴の可否	可	傍聴者数	0名
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 今年度の地域移行（退院促進）の状況について (2) 第2期小金井市精神保健福祉連絡協議会の成果物について (3) その他 3 次年度の開催日について 4 閉会		
会議結果	1 開会 2 議題 (1) 今年度の地域移行（退院促進）の状況について ◎事務局 概要の報告。 表の一番上の通し番号を参照。1番、50代男性、2番、50代女性、3番、40代女性の3名は既に今年度退院した。 4番、30代男性は令和5年の末に入院した方で、前回の協議会の際にはグループホームの体験利用をしていたが、令和6年12月に他市にある通過型グループホームに退院。現在就労継続支援B型を利用。 5番、50代女性は昨年度から地域移行支援を利用していたが、現段階で退院の見通しが立たないため、地域移行支援の利用を一旦終了。引き続き、ケースワークでグループホームへの退院を目指していく。 6番、7番、8番の三名が、前回協議会の後、今日に至るまでの間に地域移行支援の利用を開始したケース。いずれも単身生活やグループホームを目指して支援を開始した。 次に参考1、参考2を参照。長期入院等から退院した方を記載。障害福祉サービスの地域移行支援は利用しなかったが、ケースワークで関わっていた。参考1は前回協議会で紹介済み。参考2は、50代男性、精神科病院から更生施設へ入所し、精神科病院へ再度入院をされた後に、もう一度、更生施設に戻り、今年1月、市内のグループホームへ退院。通院先のデイケアと就労継続支援B型を利用しながら、順調に地域生活を送っている。		

まとめると、今年度は8人の方が地域移行支援を利用して、3名が精神科病院から退院、1名の方が精神科病院から救護施設を経て地域移行を達成。他に1名が長期入院から退院、1名が精神科病院から更生施設を経て地域移行された。

目標と比較すると、第7期小金井市障害福祉計画では、令和6年度の地域移行支援利用者数5人が目標だが、目標を設定する段階で既に地域移行支援を利用していた方が1名と、説明した10名のうち、今年度、新規に地域移行支援を利用した方が4名で、今年度新規に利用した方合わせて5名となったので、計画上の目標は達成した。

第1回協議会で、退院促進によって長期入院者4名を地域生活に移行できるよう支援することを目標に設定していたが、退院促進によって地域移行できた方は6名となり、そのうち長期入院者が2名、病院から救護施設の入所を経て地域生活に移行が1名、病院と更生施設を繰り返した後に地域生活した方が1名、長期入院に至る前に地域生活に移行した方が2名という状況。

長期入院者に限ると2名だが、様々な状況の下、6名を結果として地域生活へつなげることができた。

【質疑応答】

◎委員 対象者は今どういう形で退院されて生活しているか。

◎事務局 経済状況として年金がない人は生活保護や家族の支援で生活している。地域移行支援利用者だと生活相談員が中心にコーディネートしている。あとはヘルパー支援を利用。カンファレンス等を重ねて、かなり調整をしてから、これで大丈夫というのを確認できて退院をされるのが一般的。

1番は本人の不安が強かったが、グループホームに退院したら支援者がびっくりするぐらいスムーズに滑り出しできた。もともと真面目、丁寧な性格で、生活リズムをしっかりとしようとか、薬をきちんと飲もう、何曜日はどこに通うという決まり事を守ることができたのが移行の成功要因だと見ている。

他も市外のグループホームに入った方もいるが、知らない土地に行く場合、まずその辺りの社会資源を確認する。安心して通える通所先、訪問看護と顔つなぎをするなど、市の職員だけではなく地域の支援者の方々が準備してバトンを渡すように対応していた。

グループホームに退院できている方々のADLは、自立をされている方がほとんどである。

◎委員 成年後見制度、金銭管理などの支援が入っているなど意思決定の支援が必要な人はいたか。

◎事務局 参考1、50代男性は必要で、入院中に成年後見制度を入れて、後見人も交えて退院支援を行った。他は該当なし。

◎会長 日中の居場所はデイケアとか就労継続支援B型事業所等か。

◎事務局 全員どちらかに通っている。

◎会長 市外とか都外に退院した方の背景は。例えばバリアフリーのグループホームがなく仕方なく市外を選ばざるを得なかったなどの状況なのか、小金井市の中で、今後、課題として検討していかなければいけない内容を含んだ理由があるのか、それとも単に好みの問題なのかというところを伺いたい。

◎事務局 それぞれ個別の事情があるようだ。先ほどの成年後見制度御利用の方は、後見人中心に退院先を探したというのが理由。

1番、4番は市外のグループホームに退院したが、それぞれ事情があって、一応市内グループホームも候補には挙がった。しかし様々な施設設備、支援パターンのグループホームを見てみて、戸建て、アパート、24時間世話人がいる、いない、夜間にいるほうがいいのか、本人が見た印象、体験利用をした印象というところで最終的に判断していた。

◎会長 退院されている方ではないが、5番は一旦支援終了ということで、退院のめどがつかないというのはどのような背景があるのか。

◎事務局 一つは、長く地域移行支援を利用になっていた方であり、地域移行支援は基本的に半年間、サービスを支給決定し、半年ごとに延長の見直しを行い、延長する場合は審査会にかける手順が必要。向こう半年は退院困難ということで一旦終了になった。

この後、見通しがクリアになってきたら、もう一度、狙上に上がると見込んでいる。

◎会長 なぜ見通せないか。

◎事務局 狙っていたグループホームの空き部屋がないのが理由。候補を絞っていたから。

◎会長 この会は、どうやって精神の方のケアをより充実していくかを検討することが目的なので、より地域側の課題であれば、そこを検討していく必要があると思う。

◎会長 目標を超える人数を地域生活につなげることができたということで、今年度は達成という評価でよろしいか。

(異議なし)

◎会長 目標達成と評価する。

(2) 第2期小金井市精神保健福祉連絡協議会の成果物について

◎事務局 第2回協議会で今期の協議会の成果物として長期入院者へ配布するリーフレットを作成することで承認いただき、リーフレットの内容やレイアウト等全般については、一定協議いただいた後に事務局で預かった。その後資料2にあるとおり令和7年1月21日に部会を開催し改めて協議して修正したものが資料3である。

前回の協議会で、リーフレットの大きさについて相談したが結論は出なかったもので、内容の協議とともにリーフレットの大きさについて

も協議いただきたい。また今回は今期最後の協議会なので今回で最終決定していただきたい。なお、今年度は予算の用意がないので、内部で印刷を行い、委員を選出いただいている武蔵野中央病院、小金井病院と調整し先行配布し、他の病院は令和7年度予算に計上しているので、可決次第外部委託して印刷を行い、令和7年4月以降に小金井市民が入院している病院を抽出の上、配布について調整していく予定。

【質疑応答】

◎会長 今年度は市で印刷、先行して2つの病院に配布されるということだが、実際に現場で配布し、病院ワーカー、看護師等と一緒に患者から大きいほうがいいなどの意見をもらうとかは考えているか。一番実際に手に取る方の反応というのは気になるし、もっとこういう色がいいとか、何かヒントが得られるかも。

◎事務局 病院とどの程度調整できるかというところもあるが、可能であると考えている。

◎委員 裏面の「小金井市精神保健福祉連絡協議会 会員」並び順に意味はあるのか。

◎事務局 要綱で規定している委員の順番で並べている。

◎委員 吹き出しも統一したほうがいいのでは。

◎事務局 言葉にしたいところと、考えているところを分ける意図で使い分けている。

【意見まとめ】

・表の「退院の準備しませんか？」と書かれているところの下の四角の説明のところに、「そのような方たち」とあるが何のことを指しているのかわからない。なくても意味が通じるかと感じた。

・誰を応援しますというのが入っていたほうがいい。

・「小金井市精神保健福祉連絡協議会では」、「退院を応援しており」、「地域移行支援」などの活用も可能です。患者やその家族に向けたメッセージであれば、「皆さまの退院を応援しており」のほうが対象がより明確になり丁寧だと思う。

・入院中で、主治医やスタッフなどの信頼関係ができて、地域に相談してくれるのが一番理想的だと思う。まずは病院スタッフに相談していただきたい。そのため、病院スタッフと地域機関は半々ぐらいに見えるのがよいか。

・枠線について、点線、色を統一した方がよい。

・支援を受ける方の人物のイラストを統一した方がよい。

・「小金井市精神保健福祉連絡協議会とは…」のところの説明は、「精神障がいのある人が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう」と、シンプルにしたほうがいい。

・表紙の「家に帰りたい！」は、「退院したい！」にするのはどうか。家族によっては、家に帰ってきてもらったら困るなど、患者と家族で

	<p>希望が異なっていて、家族は家だと支援できない、でも、患者はどうしても家に帰りたいなど。これを見たら、「家に帰れる」ということが強調される可能性があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フローチャートの部分は縦書きに統一した方がよい。 ・表の「※」の位置について調整が必要。 <p>【結論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見をもとに資料3を修正、調整を行い、確定することとなった。 ・リーフレットはA4で作成することとなった。 ・市内の小金井病院、武蔵野中央病院に先行して配布できるか調整することとなった。 <p>3 その他</p> <p>◎事務局 資料4、令和6年5月23日に開催した第1回協議会に提出したものを再配付したもの。精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた方策について、令和6年度の進め方としてどんな施策に取り組むべきか整理するとしていたところだが、取り組むべき施策についてはまだ整理できていない状況である。</p> <p>そこで、施策の検討には、次期、第3期目の協議会に引き継いでいくということによろしいか。また、引き継ぐに当たって、資料4に記載しているものについて追加や修正などあれば、意見をいただきたいというのが1点。</p> <p>2点目、本日の協議会で第2期目が終了となるが、市の市民参加条例の規定上、審議会等の委員については3期までは継続可能。4月以降、第3期目も委員を引き受けただけか確認したい。</p> <p>【結論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期の協議事項として引き継ぐことに対しては意見なしで了承。 ・来期以降の委員継続については各委員から直接事務局のほうに伝えることとなった。 <p>◎事務局 次年度の予定として、令和7年5月22日木曜日の午後、それから11月13日木曜日の午後、令和8年2月19日木曜日について会場を確保してある。仮の日程として連絡する。</p> <p>【結論】</p> <p>日程については別途調整することとなった。</p> <p>◎会長 本日2期目の最後ということで、皆様から一言。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任期最後の協議会のため各委員、事務局職員よりコメント。
提出資料	<p>資料1 「地域移行支援」の支援状況について</p> <p>資料2 令和6年度 第4回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会会議録</p> <p>資料3 入院患者向けリーフレット（案）</p> <p>資料4 精神保健福祉連絡協議会で抽出された課題等のまとめ</p>